

京都府豊かな森を育てる府民税 事業評価シート

府民税 使途分野	Ⅲ 森林の重要性の啓発						
事業名	Ⅲ 豊かな森林継承事業						
事業 概要	1 目的 府民参加の森林づくりが進むよう、活動指導者や次代を担う青少年を育成し、森林の多様な機能や木材利用に対する府民理解を促進する。 2 内容 森の魅力を伝えるため、府民参加の森林整備をはじめ、木材利用を促進するセミナーや木製品展示、林業技術の PR を行うとともに、若者が森林に親しみ大切さを学ぶことで豊かな森林を次世代に継承できるよう、子ども向けの木育イベントや森林学習の交流会、京都府産材活用の設計コンペを実施した。 3 事業実績（R 6 年度） <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業区分</th><th>事業費</th><th>主な内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊かな 森林継承事業</td><td>14,000 千円</td><td> 【府民参加の森づくりの推進】 ・京都モデルフォレスト運動支援強化事業 【次世代を担う青少年の育成】 ・京都山キッズ交流会開催（京都府立丹波自然運動公園）計 141 名参加 ・森林学習会（同志社大学） 【林業技術の魅力啓発】 ・林業者等を対象とした視察研修会（樹々の会） 【木材の魅力啓発】 ・Woody コンテストの開催（作品応募 41 点） ・商業施設等での木材利用啓発イベント（3 回） ・林業や木竹材加工魅力 PR イベント 【林産物の魅力啓発】 ・漆を使った草木染体験 ・少花粉スギ球果採取と丹波くり拾い体験 ・漆の絵付け体験 【竹林の魅力啓発】 ・竹材利用拡大の取組（新たな用途の開発） 【合計 845 名参加】 </td></tr> </tbody> </table>	事業区分	事業費	主な内容	豊かな 森林継承事業	14,000 千円	【府民参加の森づくりの推進】 ・京都モデルフォレスト運動支援強化事業 【次世代を担う青少年の育成】 ・京都山キッズ交流会開催（京都府立丹波自然運動公園）計 141 名参加 ・森林学習会（同志社大学） 【林業技術の魅力啓発】 ・林業者等を対象とした視察研修会（樹々の会） 【木材の魅力啓発】 ・Woody コンテストの開催（作品応募 41 点） ・商業施設等での木材利用啓発イベント（3 回） ・林業や木竹材加工魅力 PR イベント 【林産物の魅力啓発】 ・漆を使った草木染体験 ・少花粉スギ球果採取と丹波くり拾い体験 ・漆の絵付け体験 【竹林の魅力啓発】 ・竹材利用拡大の取組（新たな用途の開発） 【合計 845 名参加】
	事業区分	事業費	主な内容				
	豊かな 森林継承事業	14,000 千円	【府民参加の森づくりの推進】 ・京都モデルフォレスト運動支援強化事業 【次世代を担う青少年の育成】 ・京都山キッズ交流会開催（京都府立丹波自然運動公園）計 141 名参加 ・森林学習会（同志社大学） 【林業技術の魅力啓発】 ・林業者等を対象とした視察研修会（樹々の会） 【木材の魅力啓発】 ・Woody コンテストの開催（作品応募 41 点） ・商業施設等での木材利用啓発イベント（3 回） ・林業や木竹材加工魅力 PR イベント 【林産物の魅力啓発】 ・漆を使った草木染体験 ・少花粉スギ球果採取と丹波くり拾い体験 ・漆の絵付け体験 【竹林の魅力啓発】 ・竹材利用拡大の取組（新たな用途の開発） 【合計 845 名参加】				



木材利用啓発イベント
(京都市役所前広場)



京都山キッズ交流会
(京都府立丹波自然運動公園)

指標	R 6 年度 実績値／目標値 (達成率)	R 6 年度までの実績値 ／ 5 年間の目標値
Ⅲ 森林の多様な機能についての府 民理解の促進 (イベント参加者)	845 人／600 人 (140%)	2,587 人／3,000 人 (86%)

1 上記達成率となった理由

Ⅲ 森林の多様な機能についての府民理解の促進 (イベント参加者)

- ・多様なイベントを開催したことで、令和6年度の目標値を上回る方がイベントに参加された。
- ・コロナ情勢におけるイベント開催の中止や規模縮小を余儀なくされた時期があったものの、積極的なPRを継続し集客を図った結果、参加者数は持ち直している。
(R3 : 440 人、R4 : 590 人、R5 : 712 人)

2 地域住民や実施主体の意見

- ・Woody コンテストの受賞者からは、「木材を使うことを考える良いきっかけとなった」などの意見をいただいた。
- ・京銘竹の普及啓発イベントでは、参加者のうち8割の人が放置竹林の問題への関心が高まったと感想を述べられた。
- ・漆を使った草木染体験参加者からはきれいに染め上がり大変喜ばれており、また参加したいと反響があった。
- ・漆の絵付け体験では、丹波漆を学び興味を持たれた人も多く、また、参加者全員から貴重な体験ができたとの声があった。
- ・京都山キッズ交流会では、森林散策を通して森林を学び、参加者から貴重な体験となった、勉強になった、楽しかったと多くの声があった。

3 今後の事業の方向性

- ・各種イベントが好評であり、引き続き多くの府民が森林の重要性を体感する機会を創出するため、継続して実施する。
- ・年々イベント参加者が増加傾向にあり、今後さらに集客を図るため、PRへの注力と参加者の意見やニーズを取り入れながら実施し普及啓発に努める。

自己
評価

有識者 会議の 意見	・ 森林の重要性についての評価は、イベント等の参加者数に加えて、参加者にアンケートを実施するなど、森林に対する理解度を把握することが必要である
------------------	---